

岩手県の 土地改良

2009(9月号)No.545

■発行所／岩手県土地改良事業団体連合会 盛岡市本宮二丁目10番1号
TEL(盛岡)019(631)3200 FAX(盛岡)019(631)3260

■撮影発行人／川邊 賢治 ■印刷所／永代印刷株式会社

<http://www.iwatochi.com>

選か彼方に(盛岡市玉山区戸川) 平成20年度農村景観写真コンクール応募作品



CONTENTS

- 北上管内で岩手県農業農村整備推進議員クラブ現地研修会を開催 2
- 疏水サミットin熊本2009が開催 3
- 石鳥谷東部・大迫町・猿ヶ石北部チームが優勝 4
- 県営黒岩地区農業基盤整備事業完工 5
- 水土里ネット一本木で生き物調査を開催 6



北上管内で岩手県農業農村整備推進議員クラブ現地研修会を開催

▶地元生産組合等と意見交換

9月10日、岩手県農業農村整備推進議員クラブ（会長：菊池勲氏）では、北上地域の農業農村整備事業の実施状況や営農組合等を研修し、農業農村整備事業の効果と効率的な作業手法の確立、地域資源の活用など創意工夫を凝らした営農活動等について理解を深めた。

今回は県営経営体育成基盤整備事業実施地区が2地区、そして生産組合等6団体の営農状況について説明を受けるなど、盛りだくさんの研修となった。



【北上南部大豆生産組合
千田順組合長】

経営体育成基盤整備事業和賀中部第四地区のほ場では、北上南部大豆生産組合千田順組合長が組合の営農状況を説明した後「水路からの漏水でほ場が水浸しになり、大豆の生育に悪影響

をあたえている。この事業を実施することにより大豆の品質向上と生産量の増加が図られると思う」と事業への期待を語った。

また、経営体育成基盤整備事業更木新田地区においては、北上川にかかる橋梁の用地の創設により、農家負担の軽減を図りつつ事業を進めていることなどを更木新田地区営農組合の遠藤福己氏が紹介した。

その後同地区にある、地域資源の発掘と地域おこしを目的として行われている桑茶工場の見学が行われ、農業生産法人「更木ふるさと興社」の小原孝也代表取締役は「桑の葉を更木地区の宝とし、地域の振興を図っていく

たい」と、抱負を述べた。一同は特色のある産地づくりと雇用創出の取組に関心を示していた。

二子地区交流センターでは、県担当者や現地で説明を行った生産組合長等が参加して議員らと意



【桑茶づくりを見学】

見交換を行った。参加者からは「農業所得が上がる長期的展望に立った政策を実現して欲しい」「生産組合や管理組合など様々な団体において各種事業を実施するための事務が非常に負担になってきてるので簡素化して欲しい」等議員に対し要望が寄せられた。

また、議員からは北上地域で行われている農村と企業との活発な交流・協同活動「農楽工楽クラブ」の取組や、その推進体制等について質問がされるなど、活発に意見が交わされた。



【座長を務める菊池会長】

疏水サミットin熊本 2009が開催

▶「過去から未来へ、ふるさとの水とみどりを守り育む」がテーマ

食料生産や環境保全など農業用水の持つ多面的な役割を多くの人々に理解してもらい、先人たちが守ってきた資源を次世代に伝えようと、全国水土里ネット、熊本県及び水土里ネット熊本の主催による「疏水サミットin熊本2009」が、9月2日～3日熊本市内の市民会館他において開催され、全国から約1,200名の関係者が参加した。

2日の午前中には、疏水ネットワーク総会が開催され、平成20年度事業報告及び決算報告と平成21年度事業計画及び予算（案）が承認、可決された。また、役員の改選も行われ、本県からは菊池勲 水土里ネット岩手中部理事長が副会長に選任された。

午後からはフォーラムが開催され、蒲島 郁夫 熊本県知事が「本県の農産物が美味しいのは、ミネラルウォーターとして販売しても、遜色ない水のおかげである。それは、地域の方々の弛まぬ環境美化活動により、水を守ってきたおかげだと認識している。是非、この滞在中に本県の農産物を召し上がっていただき、その質の高さを実感していただきたい」と挨拶を述べ

た。続いて来賓として出席した齋藤 晴美 農林水産省農村振興局次長は「疏水の歴史は、我が国の稲作の歴史であるとともに、農業生産基盤の一つである。しかし農村部の過疎化、高齢化、が進み、その保全活動が困難となってきている。このサミットを機に、より多くの方々に疏水に関心をもっていただき、次世代に継承し発展することを願う」と述べた。

基調講演では、女優であり水の研究家としても活躍する大山のぶ代さんが『たかが水・されど水』と題し「今、我々が健康でいられるのは、先代から継承されてきた貴重な水のおかげである。これをいかにして、次世代に残していくかが、私たちの使命である。そのために、かけがえのない疏水の意義をよく理解することが大事である」と提言した。



【パネルディスカッションの様子】



【講演する大山 のぶ代さん】

パネルディスカッションでは「過去から未来へ、ふるさとの水とみどりを守り育む」をテーマに、林 良博東京大学大学院農学生命科学研究科教授をコーディネーターに、パネリストには齋藤 次長の他、大学教授や熊本市役所、水土里ネット、民間企業の方々を迎えて、各々の立場からこれまでの疏水の歴史や今後の在り方について熱く語っていた。

翌日の現地研修は、天候にも恵まれ、上井手用水・南阿蘇村疏水群コースと通潤用水コースの2コースで開催された。参加者は、文化的景観を保護することや、水や緑等の資源を守っていくことの大切さを実感した様子であった。



【通潤橋の放水の様子】

なお、来年度のサミットは兵庫県で開催されることとなった。

石鳥谷東部・大迫町・猿ヶ石北部チームが優勝

▶水土里ネット親睦ソフトボール大会開催

水土里ネットいわて（会長：館澤宏邦）では9月17日、花巻市石鳥谷の「ふれあい運動公園」において恒例の水土里ネット親睦ソフトボール大会を開催し、県内各地より13チーム約240名が参加して熱戦が繰り広げられた。

開会式で館澤会長は「本日は、多数のチームの参加をいただき本大会が盛大に開催できます事を御礼申し上げる。秋空の下、お互いの融和をはかりつつチームの優勝を目指して頑張っていただきたい」と挨拶した。



【挨拶を述べる館澤会長】

大会当日は、天候にも恵まれ川村 公男花巻市副市長の始球式により試合が開始された。



【よし、ジャストミート！】

選手らは照りつける日差しの中、チーム一丸となって練習の成果を遺憾なく発揮し、白球を追いかけ額に汗しながらプレーしていた。

決勝はともに初優勝をかけ、石鳥谷東部・大迫町・猿ヶ石北部チームと



水土里ネットいわてチームの対戦となった。試合は、1回表に石鳥谷東部・大迫町・猿ヶ石北部チームの打線が爆発し一挙に12点を取り試合を優位にすすめた。水土里ネットいわてチームも粘りを見せたが及ばず、19対16で石鳥谷東部・大迫町・猿ヶ石北部チームが初優勝を飾った。

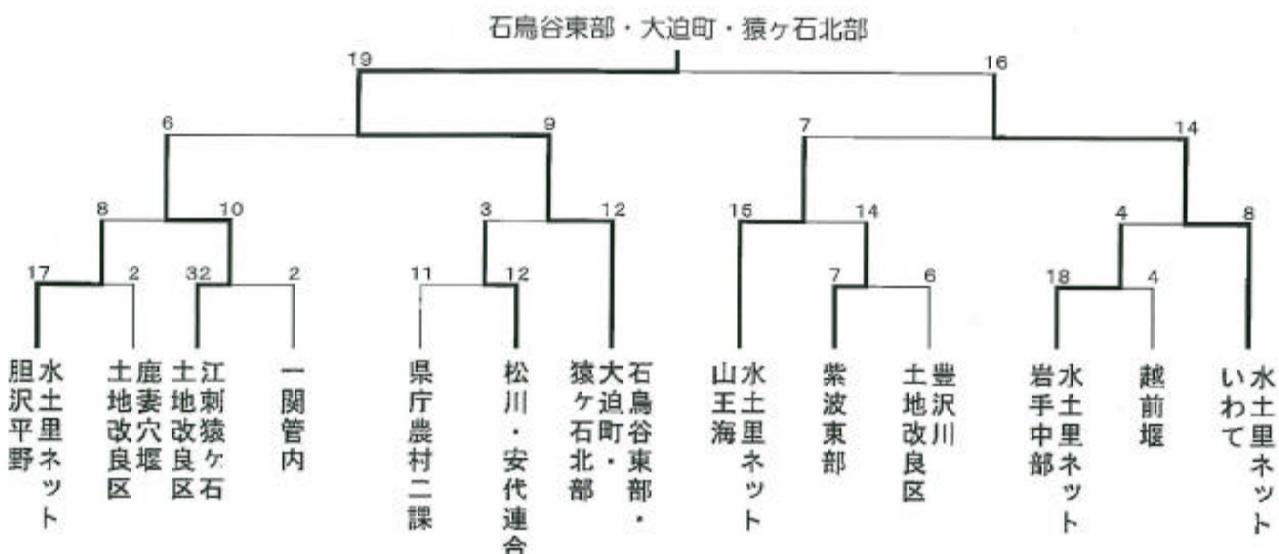


【オーライ、オーライ！】



【優勝した石鳥谷東部・大迫町・猿ヶ石北部チーム】

平成21年度 水土里ネット親睦ソフトボール大会トーナメント表



県営黒岩地区農業基盤整備事業完工

▶次世代へ託す地域農業の基盤を整備

水田の汎用化と農作業の省力化を図り、地域農業を活力あるものとしていくため、平成10年から北上市で進められていた「県営黒岩地区農業基盤整備事業」が完工したことを受け、同事業推進委員会（会長：昆 精司）では8月29日、北上市のホテルシティ

プラザ 北上において、来賓並びに関係者約140名出席のもと完工記念式典を開催した。

同地域は、中山間地域で平坦な土地が少なく、また、ほ場は区画が小さく不整型で、排水不良により湿田化していたうえ、

農道は幅員が狭く、水田の汎用化や流動化、農作業の省力化に

設立した。

地域の積極的な話し合いのもと事業導入の合意が図られ、平成10年に担い手育成基盤整備事業（平成15年度からは経営体育成基盤整備事業に変更）が採択されたのをはじめ、中山間地域総合整備事業、棚田地域等緊急保全対策事業、里地棚田保全整備事業など6事業に順次着手し、ほ場整備やバイパスによる用水路、暗渠排水、支線道路を一体的に整備した。

昆推進委員会会長は「今回の事業で生産基盤が整備され、黒岩地域の農業振興に弾みがつく。関係各位の指導を得ながら地域営農の推進を行って行きたい」と話していた。



【式典で挨拶を述べる昆会長】

支障を来していた。

当地域の水田農業の将来を見据え、次世代へ託す地域農業の環境整備が必要であるとの機運が高まり、平成7年に地域の代表者らで組織する「黒岩地域農業基盤整備事業推進委員会」を

水土里ネット一本木で生き物調査を実施

▶多種多様な水棲生物を観察しながら水質保全の大切さを学ぶ



水土里ネット一本木(理事長：角掛三四郎)では、8月24日「中山間ふるさと水と土保全対策事業」の一環として、地元の滝沢村立一本木小学校の4年生21名を対象に管内を流れる砂込川において、生き物調査を実施した。調査にあたり角掛 勉 水土里ネット一本木事務局長は



【挨拶を述べる角掛事務局長】

「日頃、皆さんには水路や川で珍しい生物を見ることがあると思いますが、本日はパックテスト(簡易水質検査キット)を使って水の汚染度の指標となる、COD(化学的酸素要求量)やアンモニア態窒素(アンモニウム塩をその窒素量で表したもの)などを調べ記録していただきます。これを、今後きれいな水質を保っていくための目安にしたいと思っております」と挨拶した。

児童らは、砂込川に入りバケツで水を掬い、川の中のかげろウやエビ等の様々な生き物を捕まえては、図鑑と照らし合わせ

て観察していた。



【何がいるかな?】

中には、初めてみる生物に奇声をあげ、驚いている児童もあり、熱心に日誌に記録していた。今後も水土里ネット一本木では、同小学校と連携し様々な企画を行っていくこととしている。

水土里ネットいわて 今後の行事予定

10月27日(火)～28日(水) 全国土地改良大会(島根県)